

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	神石高原町立豊松小学校
-----	-------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

食に関する指導の年間計画に基づき、授業計画を立て、連携をとりながら食育を進めている。

本校では、好ききらいをせず、意欲的に給食を食べる児童が多いが、偏食、小食などの理由で、給食を食べるための時間がかかる児童が固定化している。食事のマナーについては、箸の持ち方と茶碗の持ち方についての定着を図るため、給食時間や全校集会、各学期の家庭生活振り返り週間で、担任、保護者と連携をして取り組んでいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

中期経営目標 健康で元気な体をつくり、体力の増進を図る。

短期経営目標 望ましい生活習慣の定着を図り、進んで体力づくりに取り組もうとする子を育てる。

目標達成のための手立て「家庭生活振り返り表」を活用し、生活重点項目の振り返りをさせる。

評価項目 毎学期行う生活振り返り週間での食に関する項目について、自己評価及び家族評価における達成率を85%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 望ましい生活習慣の定着

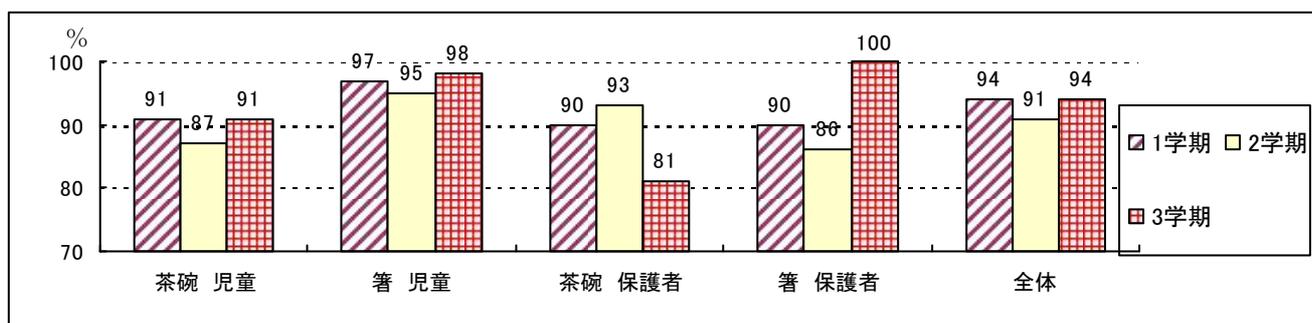
○給食時間の見取りと個人指導

昨年度より取り組んでいる食事のマナーとして「茶碗を持って食べる」「箸を正しく持つ」ことを児童に定着させるため、全校及び学級で指導を行うとともに、給食時間に児童ひとりずつの見取りと個人指導を行った。

○生活重点項目の振り返り

毎学期行う家庭生活振り返り週間での食に関する項目で、昨年度より、「茶碗を持って食べる」「箸を正しく持つ」ことの自己評価及び家族評価を行った。

3学期の実施前には、全校朝会で児童に正しい持ち方について、参観日では保護者に給食時間の児童の実態について話し、家庭での取組を呼びかけた。



(グラフは各項目の達成率)

【取組2】(テーマ) 地場産物を活用した特色ある学校給食

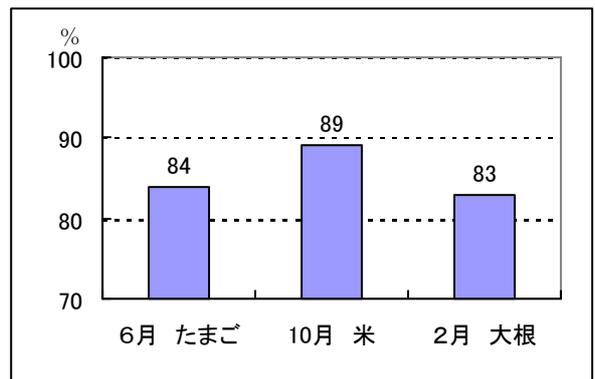
○神石高原ランチの取組

平成21年度より、食育地産地消推進事業として「小中学校の給食に地元特産物を使った食材を提供することにより、地元農産物(農業)のよさを見直し興味関心を高め、地産地消と食育を推進し特色ある教育を行う。」ことを目的に、神石高原ランチが始まった。

食育月間(6月)・食育の日(19日)・ひろしま食育の日(10月19日)を基準に、各学期に1回程度、地場産物を活用した給食献立を設定し、町内全小中学校に同日・同メニューの給食を実施している。

通常の給食材料費とは別に町より予算化され、使用する地元食材は、教育委員会で一括購入して、各学校と調理場に届けられている。

毎回紹介する地場産物等の取材をし、掲示資料を作成後、各校に配布。それをもとに、本校用に放送原稿と資料を作成して学級指導を行い、実施後「地場産物について理解したという感想を記入している児童を80%以上にすること」を目標にしている。



(グラフは地場産物について感想を記入した児童)

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

神石高原ランチで「ひろしまオールスター★担々丼」が登場した。町内産の米、豚肉、干しいたけ、ベーコン、トマト、たまねぎ、キャベツ、なす、かぼちゃ、ほうれん草、ピオーネを使用した。また、米の生産者取材し掲示資料や放送資料を作成し、配膳図とともに町内小中学校に配布した。他のひろしま給食3品も給食で提供し、家庭での調理を呼びかけた。

夏季休業中に、学校給食業務者と一緒にひろしま給食5品の調理実習・試食・意見交流を行い、調理施設で、ひろしま給食の調理が行われるように取組んだ。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

望ましい生活習慣の定着では、給食時間に声かけをすると、ほぼ正しく持つことができるようになった。また、家庭と連携をし、「家庭生活振り返り週間」に取組みを行い、自己評価及び家族評価における達成率は全体で85%以上となった。

【課題】

給食時間の見取りからは達成率より低く見受けられ、食事のマナーは、まだ定着したとは言えず、引き続き担任、保護者と連携をして取り組む必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

「家庭生活振り返り週間」だけの取組みとならないように、引き続き家庭と連携をとりながら、給食時間を中心に見取り、個別に指導を行う。